

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成16年度病虫害発生予報第6号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病虫害発生予報第6号(9月)

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
普通期水稻	穂いもち 紋枯病 トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	並 並 並 並 並	並 並 並 並 並
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	多い 並	多い 並

斑点米カメムシ類については前年対比

【普通作物 - 普通期水稻】

1 穂いもち

(1) 予報の内容

発生量：平成並・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、葉いもちの発病株率は3.0%（平成：6.2%、前年：4.8%）、発生ほ場率は27.9%（平成：38.5%、前年：34.4%）であった。

イ 穂いもちの発病穂率は0.5%（平成：0.4%、前年：1.7%）、発生ほ場率は20.0%（平成：37.9%、前年：57.1%）であった。

ウ 気象予報では9月の平均気温は平成並か高く、降水量は平成並か多く、日照時間は平成並と予想されている（以下の病虫害についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 穂いもちは収穫に影響を及ぼすので、出穂前後の基幹防除を徹底する。

イ 上位葉に葉いもちの病斑がみられるほ場や常発地では、穂揃期に2回目の防除を行う。

ウ 薬剤については「平成16年度普通作物病虫害防除の手引き」を参照する（以下の病虫害についても同じ）。

## 2 紋枯病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、発病株率は6.6%（平年：7.1%、前年：5.8%）、発生ほ場率は44.3%（平年：56.7%、前年：37.7%）であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

出穂期以降、病斑の上位葉への進展がみられる場合は、補正防除を行う。

## 3 トビイロウンカ

### (1) 予報の内容

発生量：平年並・前年よりやや多い

### (2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は1.9頭（平年：1.3頭、前年：0.3頭）、発生ほ場率は39.3%（平年：29.2%、前年：13.1%）であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

要防除水準（8月下旬の発生量が100株当たり100頭、9月下旬では100株当たり1,000頭）を超える場合は早急に防除を実施する。

## 4 コブノメイガ

### (1) 予報の内容

発生量：平年並・前年よりやや少ない

### (2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、食害株率は20.5%（平年：23.2%、前年：43.8%）であった。また、上位2葉の食害葉率は1.2%（平年：1.8%、前年：4.6%）であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

補正防除を行う場合は、農薬使用基準を確認し薬剤の選定を行う。

## 5 斑点米カメムシ類

### (1) 予報の内容

発生量：前年並

### (2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、主要3種（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類）は本田で0.2頭（前年：0.3頭）、畦畔で1.3頭（前年：1.9頭）、雑草地で5.8頭（前年：6.6頭）であった。

カスミカメ類は本田で0.5頭（前年：0.6頭）、畦畔で2.7頭（前年：13.7頭）、雑草地で18.1頭（前年：34.0頭）であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期は穂揃期及びその7～10日後である。

イ 発生量に地域間差がみられ、県南地域は主要3種カメムシ類及びカスミカメ類ともに発生量が多いので注意する。

ウ イネ科雑草（エノコログサ、イヌビエ類等）が多くこれらの出穂が確認される地域及び斑点米の発生が毎年多い地域では防除を徹底する。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、25株当たり幼虫数は37.7頭（平年：12.2頭、前年：1.5頭）、発生ほ場率は73.7%（平年：55.4%、前年：31.6%）であった。

イ 8月1～6半旬のフェロモントラップ（筑紫野市）による誘殺虫数は1,265頭（平年：668頭、前年：1,132頭）であった。

ウ 気象予報では9月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

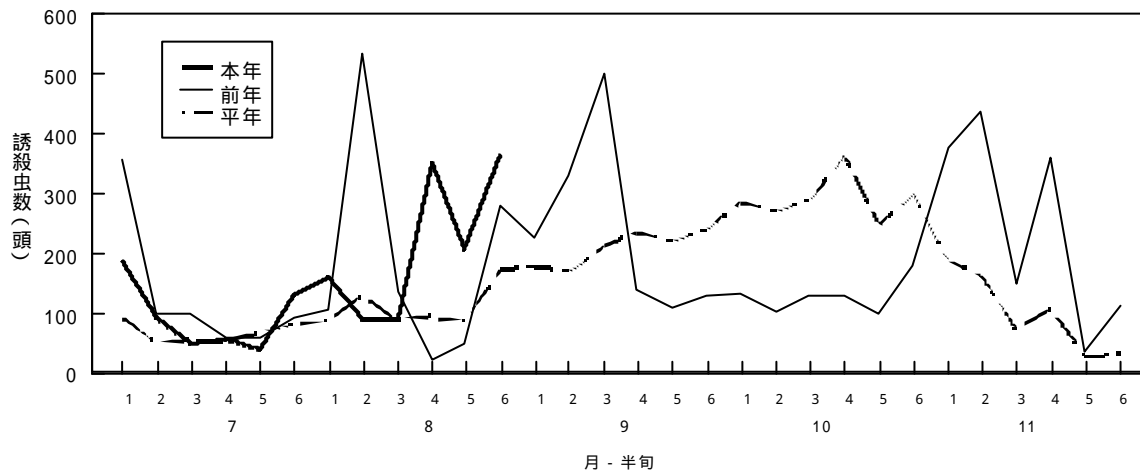
(3) 防除上注意すべき事項

ア 若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。

イ 薬剤防除は防除効果が高い若齢幼虫期に実施する。

ウ フェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃が防除適期となるが、ほ場での白変葉の発生を確認し、防除を実施する。

エ フェロモントラップによる誘殺状況は、病害虫防除所のホームページを参照する。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑紫野市）  
武田式乾式トラップ

## 2 吸実性カメムシ類

### (1) 予報の内容

発生量：平年並・前年よりやや多い

### (2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、25株当たりの主要3種カメムシ類（アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ）の成幼虫数は0.2頭（平年：0.3頭、前年：0頭）、発生ほ場率は10.5%（平年：15.9%、前年：0%）であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 幼莢期から子実肥大期の加害が多いので、この時期の防除を徹底する。  
なお、防除は着莢部に薬剤が十分付着するように散布する。

イ カメムシ類は広範囲に移動するので、薬剤散布は出来るだけ広い地域を一斉に行うと効果が高い。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	並 並	並 並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	やや少ない 少ない やや多い やや多い	並 少ない やや多い やや多い
カキ カンキツ類等	カメムシ類	やや多い	並

【果 樹】

1 カンキツ黒点病

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病果率は3.1%（平年：3.4%、前年：3.3%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている（以下の病虫害についても同じ）。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを目安に降雨の合間をぬって防除を行う。

イ 枯れ枝は、感染源になるので極力除去する。

ウ 収穫期に入る極早生種は、農薬使用基準を確認し、薬剤の選定を行う。（以下の病虫害についても同じ）。

2 カンキツのミカンハダニ

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生葉率は15.2%（平年：15.9%、前年：21.7%）であった。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 8月30日の台風（16号）により寄生虫数は減少していると思われるが、防除を行う場合は薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

3 カキ炭疽病

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病枝率は0.1%（平年：1.3%、前年：1.2%）、発病果率は0.3%（平年：0.7%、前年：0.9%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 8月30日の台風（16号）により、枝葉の損傷や傷果が多く、感染しやすくなっているので十分に注意する。

イ 降雨が続くと多発するので、降雨の合間をぬって防除を行う。

ウ 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので極力除去する。

エ 収穫期に入る早生種は、農薬使用基準を確認し、薬剤の選定を行う。（以下の病害虫についても同じ）。

4 カキうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、発病葉率は2.5%（平年：12.1%、前年：20.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

秋期は発生が増加するので発生状況に注意し、防除を行う場合は、葉裏にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

5 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、寄生果率は12.9%（平年：9.0%、前年：16.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ヘタの下や葉と重なった果実など、薬剤がかかり難いか所に多く寄生しているため、散布むらのないよう防除する。

6 カキのハマキムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、被害果率は2.4%（平年：0.7%、前年：0.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ヘタの下や葉と重なった果実など、薬剤がかかり難いか所に多く寄生しているため、散布むらのないよう防除する。

7 カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 8月1～6半旬の予察灯（県内6か所平均）及び集合フェロモントラップ（筑紫野市）による誘殺虫数は表1のとおりである。

イ 8月5半旬調査の結果、カキの被害果率は4.5%（平年：1.7%、前年：0.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

収穫期に入る品種は、農薬使用基準を確認し、薬剤の選定を行う。

表1 予察灯及びフェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺状況

月 - 半旬	予察灯			フェロモントラップ		
	本年	平年	平成14年	本年	平年	平成14年
	頭	頭	頭	頭	頭	頭
8 - 1	4,885	349	1,263	6,792	1,975	13,176
8 - 2	4,056	285	979	5,753	335	1,323
8 - 3	2,162	309	1,861	1,162	978	6,409
8 - 4	772	262	700	1,304	333	2,158
8 - 5	739	177	224	913	100	486
8 - 6	321	251	475	486	114	608
合計	12,935	1,633	5,502	16,410	3,835	24,160

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ カンザワハダニ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 やや少ない 少ない 少ない 並 やや少ない	並 やや少ない やや少ない やや少ない 並 やや少ない

【茶】

1 炭疽病

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病葉数は0.5葉(平年：0.7葉、前年：0.4葉)であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている(以下の病虫害についても同じ)。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から3葉期までに薬剤防除を実施する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

2 チャノコカクモンハマキ

( 1 ) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年よりやや少ない

( 2 ) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、巻葉数は0.5葉(平年：0.7葉、前年：2.6葉)であった。

イ 8月1半旬～8月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。

筑後市 89頭(平年：286頭、前年：374頭)

八女市 39頭(平年：208頭、前年：137頭)

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 第3世代成虫の発蛾最盛期は平年並の9月1半旬～9月2半旬と予想される。

イ 発生の予想される園では、成虫の発生に注意し、発蛾最盛期7日後の9月2半旬～3半旬を目安に防除を行う。

ウ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

3 カンザワハダニ

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない



(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生葉率は0.3% ( 平年：2.6%、前年：1.8% ) で、50葉当たり寄生虫数は0.2頭 ( 平年：8.0頭、前年：2.5頭 ) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況に注意し、寄生葉率が2%以上ある場合は防除を行う。

4 チャノホソガ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年よりやや早く、前年並

イ 発生量：平年よりやや少なく、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、巻葉数は0.7葉 ( 平年：2.4葉、前年：6.7葉 ) であった。

イ 8月1半旬～8月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は、86頭 ( 平年：288頭、前年：690頭 ) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第4世代成虫の発蛾最盛期は平年よりやや早く9月2半旬頃と予想されるので、発蛾最盛期7日後の9月3～4半旬を目安に防除を行う。

イ 秋季は発生が多くなるので、発生の多い園では2～3葉期に必ず薬剤防除を行う。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、0.2頭 ( 平年：0.3頭、前年：0.5頭 ) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし ( A4版白紙上 ) で4頭以上発生している場合は防除を行う。

6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、2.1頭 ( 平年：3.3頭、前年：4.0頭 ) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし ( A4版白紙上 ) で10頭以上発生している場合は防除を行う。

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	やや多い やや多い 少ない やや少ない 並	やや多い やや多い 少ない やや少ない 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	やや多い	やや多い
野菜共通	ハスモンヨトウ オオタバコガ	多い やや多い	多い やや多い

1 アスパラガスの斑点病

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

( 2 ) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病株率は30.0%（平年：21.0%、前年：20.6%）であった。

イ 気象予報では、9月の降水量は平年並か多いと予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を的確に行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤による防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

2 アスパラガスのハダニ類

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

( 2 ) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、寄生株率は10.6%（平年：6.0%、前年：7.8%）であった。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

3 ネギのシロイチモジヨトウ

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

( 2 ) 予報の根拠

7月5半旬～8月2半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数は226

頭（平年：211頭、前年：143頭）、8月2半旬～8月5半旬は233頭（平年：189頭、前年：135頭）であった。

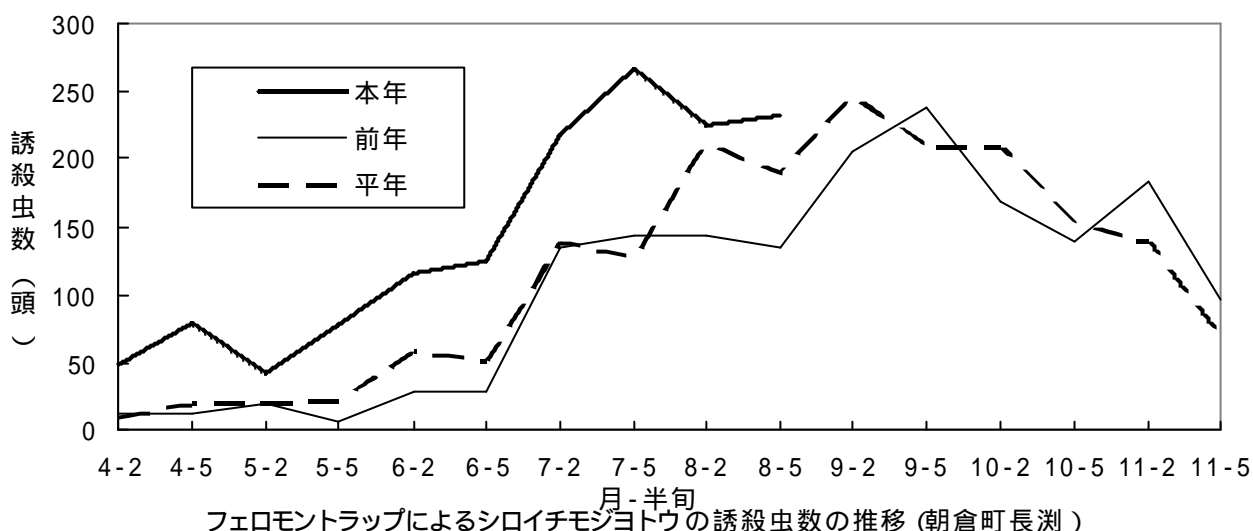
(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫は、そのまま葉身内に食入し内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、孵化直後の幼虫をねらって防除する。

ウ 成虫の飛び込み防止のため施設に防虫ネットを被覆する場合は、4mm目以下とし、隙間がないように張る。

エ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移 (朝倉町長淵)

4 野菜共通のハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

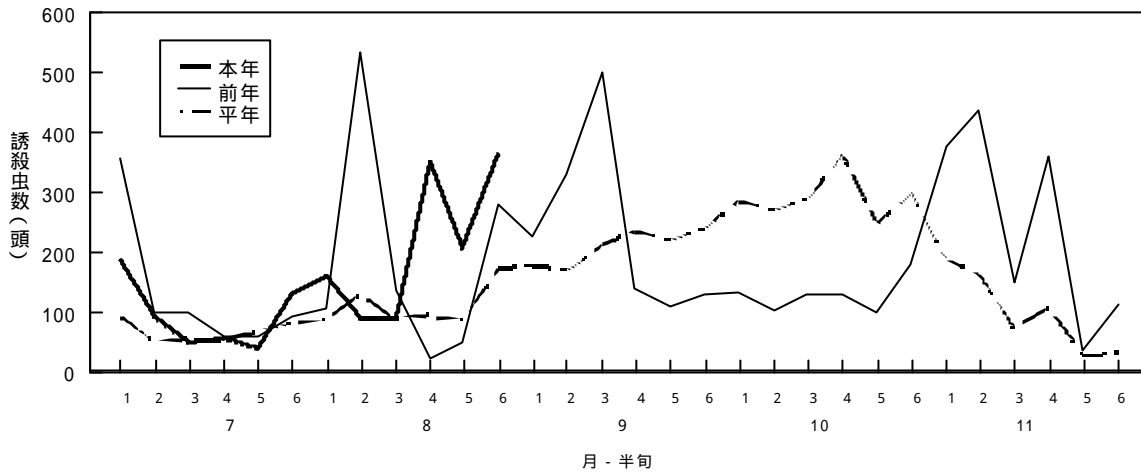
8月1～6半旬のフェロモントラップ（筑紫野市）による誘殺虫数は1,265頭（平年：668頭、前年：1,132頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は防除効果が高い若齢幼虫期に実施する。

イ フェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃が防除適期となるが、ほ場での若齢幼虫の発生を確認し、防除を実施する。

ウ フェロモントラップによる誘殺状況は、病害虫防除所のホームページを参照する。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移 (筑紫野市)  
武田式乾式トラップ

## 5 野菜共通のオオタバコガ

### (1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや多い

### (2) 予報の根拠

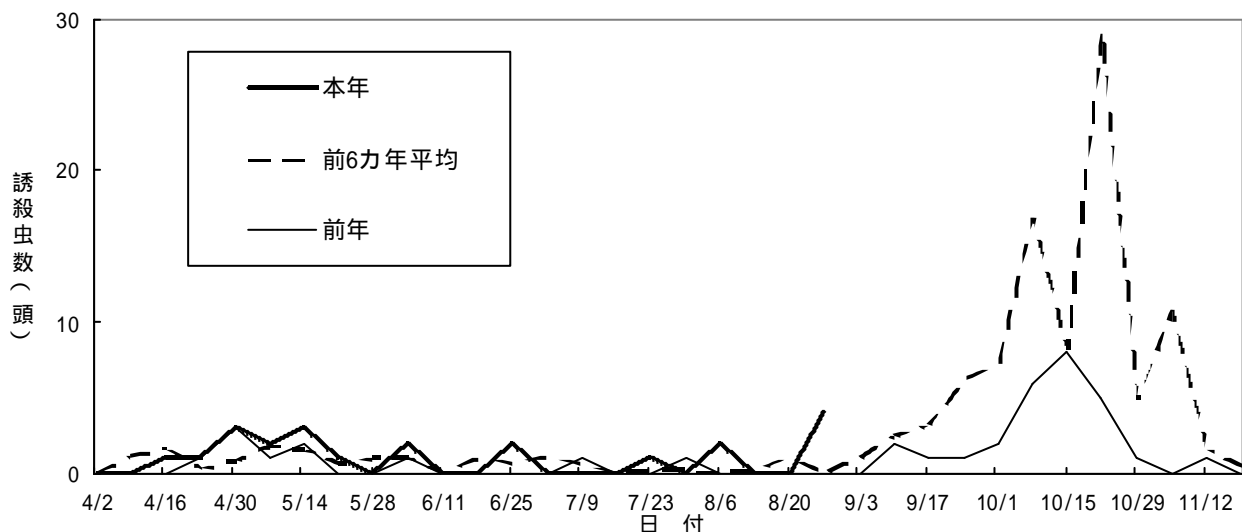
8月1～27日までのフェロモントラップ(広川町)による誘殺虫数は6頭(平年:1.9頭、前年:0頭)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は防除効果が高い若齢幼虫期に実施する。

イ フェロモントラップの誘殺ピークから被害の発生までは間がないので、ほ場での若齢幼虫の寄生を確認し、防除を実施する。

ウ フェロモントラップによる誘殺状況は、病害虫防除所のホームページを参照する。



フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺虫数の推移 (広川町)

# 9月の気象予報（1か月）

（予報期間 9月4日～10月3日）

2004年 9月3日  
福岡管区気象台発表

## 【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並の可能性が大きいです。

九州北部地方では、天気は期間のはじめは曇りや雨の日が多いですが、その後は数日の周期で変わるでしょう。

## 【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 9月4日～9月10日  
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいです。
- < 2週目の予報 > 9月11日～9月17日  
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいです。
- < 3～4週目の予報 > 9月18日～10月1日  
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいです。

## 参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
22.3	165.1	157.8	25.3	24.1	22.3

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス  
電子メールアドレス

<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>  
[kfok0301@sp.jpnp.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnp.ne.jp)